

# 四半期報告書

(第74期第2四半期)

ニチレキ株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営上の重要な契約等】 .....	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	20

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月10日

【四半期会計期間】 第74期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 ニチレキ株式会社

【英訳名】 NICHIREKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小幡 学

【本店の所在の場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【電話番号】 03-3265-1511

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部長 後藤 武士

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【電話番号】 03-3265-1511

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部経理課課長代理 益子 剛

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第2四半期 連結累計期間	第74期 第2四半期 連結累計期間	第73期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	19,485	23,964	54,439
経常利益 (百万円)	917	1,529	5,872
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	561	1,006	3,762
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	485	1,726	4,365
純資産額 (百万円)	42,888	47,835	46,768
総資産額 (百万円)	55,509	62,475	65,406
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	19.58	35.11	131.24
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	77.3	76.6	71.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,034	2,849	5,640
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,486	△3,258	△2,607
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△590	△673	△611
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	17,802	18,224	19,289

回次	第73期 第2四半期 連結会計期間	第74期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	28.74	30.16

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、政府の経済対策や日銀の金融緩和政策を背景に、企業収益や雇用情勢が改善するなど、緩やかな回復基調が続きました。しかし一方で、アジア新興国等の経済の不確実性や金融資本市場の変動等の影響により、景気の先行きは依然として不透明な状況にありました。

当社グループを取り巻く環境につきましては、公共投資は底堅さが増し、堅調に推移しているものの、受注競争の激化や資材価格の変動など、引き続き厳しい状況にありました。

当社グループはこのような環境の中で、中期経営計画『Next 2020』の2年目として「市場の拡大と深耕」を最重点課題とする成長戦略に基づき、各施策に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は23,964百万円（前年同四半期比23.0%増）となりました。また、営業利益は1,416百万円（前年同四半期比62.1%増）、経常利益は1,529百万円（前年同四半期比66.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,006百万円（前年同四半期比79.3%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (アスファルト応用加工製品事業)

アスファルト応用加工製品事業につきましては、自社製品および工法の設計・受注活動を推進するとともに、原材料価格変動への対応、経費の削減等に努めてまいりました。当第2四半期連結累計期間の売上高は7,635百万円（前年同四半期比21.3%増）、セグメント利益は1,709百万円（前年同四半期比10.2%増）となりました。

#### (道路舗装事業)

道路舗装事業につきましては、発注物件への工法提案や受注活動と工事の着実な執行に加え、原価管理の強化を進めてまいりました。当第2四半期連結累計期間の売上高は16,184百万円（前年同四半期比24.0%増）、セグメント利益は753百万円（前年同四半期比134.9%増）となりました。

#### (その他)

その他につきましては、不動産賃貸収入などにより、売上高は144百万円（前年同四半期比3.2%増）、セグメント利益は107百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末に比べて2,930百万円減少し、62,475百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が5,755百万円減少、投資有価証券が1,570百万円、長期預金が1,005百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて3,997百万円減少し、14,640百万円となりました。これは、買掛金が1,923百万円、未払金が501百万円、未払法人税等が1,118百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,066百万円増加し、47,835百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が721百万円増加したことなどによるものです。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

区分	前第2四半期連結 累計期間 (百万円)	当第2四半期連結 累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,034	2,849	△184
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,486	△3,258	△1,771
財務活動によるキャッシュ・フロー	△590	△673	△82
現金及び現金同等物の増減額	915	△1,064	△1,980

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前年同四半期連結累計期間末に比べて、421百万円増加し、18,224百万円となりました。当四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローで増加した資金は2,849百万円（前年同四半期比6.1%減）となりました。これは売上債権の減少5,150百万円、仕入債務の減少2,322百万円などによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローで支出した資金は3,258百万円（前年同四半期比119.1%増）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1,561百万円などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローで支出した資金は673百万円（前年同四半期比13.9%増）となりました。これは、配当金の支払による支出651百万円などによるものです。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は361百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,685,955	31,685,955	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	31,685,955	31,685,955	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年9月30日	—	31,685	—	2,919	—	2,017

## (6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,539	4.86
ニチレキ取引先持株会	東京都千代田区九段北四丁目3番29号	1,485	4.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,276	4.03
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,108	3.50
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	1,100	3.47
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300, BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区6丁目27番30号)	712	2.25
公益財団法人池田20世紀美術館	静岡県伊東市十足614	630	1.99
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	543	1.71
ニチレキ従業員持株会	東京都千代田区九段北四丁目3番29号	540	1.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	529	1.67
計	—	9,465	29.87

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式3,013千株(9.51%)があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 1,539千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 1,276千株

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,013,600	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,654,500	286,545	—
単元未満株式	普通株式 17,855	—	—
発行済株式総数	31,685,955	—	—
総株主の議決権	—	286,545	—

(注) 単元未満株式の欄には、当社所有の自己株式が28株含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) ニチレキ(株)	東京都千代田区九段 北四丁目3番29号	3,013,600	—	3,013,600	9.51
計	—	3,013,600	—	3,013,600	9.51

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,604	18,234
受取手形及び売掛金	19,006	※ 13,251
電子記録債権	1,253	1,513
商品及び製品	900	850
未成工事支出金	222	513
原材料及び貯蔵品	750	733
未収還付法人税等	—	272
繰延税金資産	508	401
その他	491	1,019
貸倒引当金	△22	△14
流動資産合計	42,716	36,774
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,843	5,871
機械装置及び運搬具（純額）	3,002	3,254
土地	4,357	4,357
リース資産（純額）	246	270
建設仮勘定	64	85
その他（純額）	570	587
有形固定資産合計	14,084	14,425
無形固定資産		
その他	287	402
無形固定資産合計	287	402
投資その他の資産		
投資有価証券	4,868	6,439
関係会社出資金	809	809
関係会社長期貸付金	750	750
繰延税金資産	368	360
長期預金	1,115	2,120
その他	581	567
貸倒引当金	△61	△58
投資損失引当金	△116	△116
投資その他の資産合計	8,317	10,873
固定資産合計	22,689	25,701
資産合計	65,406	62,475

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,481	5,557
短期借入金	700	700
未払金	3,054	2,553
未払法人税等	1,405	287
賞与引当金	788	852
その他の引当金	300	113
その他	1,524	1,040
流動負債合計	15,255	11,103
固定負債		
長期末払金	29	6
リース債務	228	249
長期預り金	48	48
繰延税金負債	652	992
環境対策引当金	0	0
退職給付に係る負債	2,317	2,134
資産除去債務	104	105
固定負債合計	3,381	3,536
負債合計	18,637	14,640
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,919	2,919
資本剰余金	2,017	2,017
利益剰余金	41,271	41,618
自己株式	△1,778	△1,778
株主資本合計	44,430	44,777
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,159	2,880
退職給付に係る調整累計額	179	177
その他の包括利益累計額合計	2,338	3,058
純資産合計	46,768	47,835
負債純資産合計	65,406	62,475

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	※1 19,485	※1 23,964
売上原価	14,984	18,735
売上総利益	4,500	5,228
販売費及び一般管理費	※2 3,627	※2 3,812
営業利益	873	1,416
営業外収益		
受取利息	16	16
受取配当金	66	75
為替差益	—	15
その他	9	10
営業外収益合計	92	118
営業外費用		
為替差損	42	—
その他	5	5
営業外費用合計	48	5
経常利益	917	1,529
特別利益		
固定資産売却益	12	8
受取補償金	10	4
その他	—	3
特別利益合計	22	15
特別損失		
固定資産除却損	14	6
退職特別加算金	4	—
災害による損失	18	—
その他	0	0
特別損失合計	36	7
税金等調整前四半期純利益	903	1,538
法人税、住民税及び事業税	257	394
法人税等調整額	85	138
法人税等合計	342	532
四半期純利益	561	1,006
親会社株主に帰属する四半期純利益	561	1,006

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	561	1,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△77	721
退職給付に係る調整額	2	△1
その他の包括利益合計	△75	719
四半期包括利益	485	1,726
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	485	1,726



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	903	1,538
減価償却費	987	987
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△25	△9
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4	63
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△68	△185
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△101	△187
受取利息及び受取配当金	△83	△91
支払利息	2	2
為替差損益 (△は益)	40	△15
固定資産売却損益 (△は益)	△12	△8
固定資産除却損	14	6
売上債権の増減額 (△は増加)	5,611	5,150
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△539	△222
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△115	18
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	△0	8
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,978	△2,322
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△68	42
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△1	△23
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△136	△229
その他	16	△0
小計	4,441	4,521
利息及び配当金の受取額	83	91
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△1,475	△1,761
その他	△12	0
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,034</b>	<b>2,849</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△6	△1,011
定期預金の払戻による収入	406	311
有形固定資産の取得による支出	△1,565	△1,561
有形固定資産の売却による収入	13	37
有形固定資産の除却による支出	△2	△2
無形固定資産の取得による支出	△100	△50
投資有価証券の取得による支出	△211	△531
貸付けによる支出	—	△453
貸付金の回収による収入	2	2
関係会社出資金の取得による支出	△23	—
その他	—	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,486</b>	<b>△3,258</b>

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	800	900
短期借入金の返済による支出	△800	△900
リース債務の返済による支出	△19	△21
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△571	△651
財務活動によるキャッシュ・フロー	△590	△673
現金及び現金同等物に係る換算差額	△40	16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	915	△1,064
現金及び現金同等物の期首残高	16,887	19,289
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 17,802	※ 18,224

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- ※ 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	一百万円	223百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第3四半期連結会計期間から第4四半期連結会計期間において完成する工事の割合が大きいため、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間における売上高に比べ、第3四半期連結会計期間から第4四半期連結会計期間における売上高が多くなるといった季節的変動があります。

- ※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
従業員給料手当等	1,074百万円	1,151百万円
賞与引当金繰入額	419百万円	471百万円
退職給付費用	169百万円	124百万円
貸倒引当金繰入額	△23百万円	△8百万円
減価償却費	238百万円	234百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	18,431百万円	18,234百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△629百万円	△10百万円
現金及び現金同等物	17,802百万円	18,224百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	573	20	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	659	23	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アスファルト 応用加工製品 事業	道路舗装 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,295	13,050	19,345	140	19,485	—	19,485
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,349	—	3,349	26	3,376	△3,376	—
計	9,644	13,050	22,694	167	22,861	△3,376	19,485
セグメント利益	1,551	320	1,872	106	1,978	△1,104	873

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、損害保険代理事業等であります。

2 セグメント利益の調整額△1,104百万円にはセグメント間取引消去△72百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,032百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アスファルト 応用加工製品 事業	道路舗装 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,635	16,184	23,819	144	23,964	—	23,964
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,227	—	4,227	28	4,255	△4,255	—
計	11,862	16,184	28,046	173	28,220	△4,255	23,964
セグメント利益	1,709	753	2,462	107	2,570	△1,153	1,416

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、損害保険代理事業等であります。

2 セグメント利益の調整額△1,153百万円にはセグメント間取引消去△61百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,092百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	19.58円	35.11円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	561	1,006
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	561	1,006
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,672	28,672

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月8日

ニチレキ株式会社  
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小 倉 明 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 千 葉 茂 寛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチレキ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチレキ株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期連結財務諸表に添付される形で当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	確認書
<b>【根拠条文】</b>	金融商品取引法第24条の4の8第1項
<b>【提出先】</b>	関東財務局長
<b>【提出日】</b>	平成29年11月10日
<b>【会社名】</b>	ニチレキ株式会社
<b>【英訳名】</b>	NICHIREKI CO., LTD.
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 小幡 学
<b>【最高財務責任者の役職氏名】</b>	該当事項はありません。
<b>【本店の所在の場所】</b>	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
<b>【縦覧に供する場所】</b>	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 小幡 学は、当社の第74期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

